

令和 8 年度柴田町議会

9 月会議

所 信 表 明

柴田町長 石森 靖明

目 次

I	はじめに-----	3
II	今後の町政運営の概要-----	3
1	町民の皆様とともに創るまち-----	4
2	未来へ挑戦する町政-----	4
3	持続可能な町政-----	4
III	今後の施策の方向性-----	5
1	子育て・教育環境の充実-----	5
2	地域交通と安全・安心な暮らしの確保-----	6
3	地域経済の活性化と均衡ある発展-----	6
4	持続可能な行財政運営-----	7
5	協働によるまちづくり-----	8
IV	おわりに-----	9

令和8年度柴田町議会9月会議の開会にあたり、議長のお許しをいただきましたので、町政運営に対する私の所信を申し述べさせていただきます。議員各位及び町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

I はじめに

私は、去る7月12日執行の柴田町長選挙におきまして、町民の皆様からの負託をいただき、7月23日、第6代柴田町長に就任いたしました。24年ぶりに誕生した新たな町長として、初めて定例会議の場に立ち、改めてその職責の重さを感じ、身の引き締まる思いであります。大任を与えていただきました町民の皆様や、議員各位の期待に応えるべく、全身全霊を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

II 今後の町政運営の概要

さて、今、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しています。

人口減少、少子高齢化は全国的に進行し、地域経済や地域コミュニティ、社会保障制度、公共施設の維持など、様々な分野に影響を及ぼしています。

また、物価やエネルギー価格の上昇、激甚化・頻発化する自然災害、デジタル技術の急速な進展など、私たちはこれまで経験したことのない変化の中にあります。こうした時代だからこそ、行政には、過去にとらわれず、変化を的確に捉え、柔軟に対応する力、そして、新しい発想を取り入れ、未来を見据えて挑戦する姿勢が求められています。

私は、人口が減少していく時代だからこそ、町の活力まで失ってはならないと考えています。人口という数字だけにとらわれるのではなく、町民一人ひとりが幸せや豊かさを実感でき、町外からも「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」と思っただけの柴田町をつくっていくためには、これまで積み重ねてきたものを大切にしながらも、時代の変化に合わせて町政そのものを進化させていかなければなりません。

私は、三つのキーワードを常に念頭に置きながら、今後の町政運営を進めていきたいと考えています。

1 一つ目は、「町民の皆様とともに創るまち」です。

私はこれまで各地域を自らの足で歩き、多くの方々の声に耳を傾け、子育てや教育、地域交通、物価高騰への対応、道路や側溝などの生活環境、農業や商業の振興、企業誘致、高齢者福祉、防災、地域コミュニティなどに対する様々な声を伺ってまいりました。

私は、それらの声を真正面から受け止め、町民の皆様の声を町政の中心に据えながら、柴田町の新しい時代を切り拓いていかなければならないと、決意を新たにしております。

これからも、私自身が地域へ出向き、自分の目を見て、自分の耳で声を聞くために、今後、町内すべての行政区でタウンミーティングを開催し、年代を問わず町民の皆様と直接意見を交わす機会を設けてまいります。

いただいた声を「聞くだけ」で終わらせるのではなく、町政にどのように生かすことができるのかを考え、その結果を町民の皆様にお返ししていくことも重要です。対話と実行を積み重ねることで、町政への信頼を高め、町民と行政が同じ方向を向いて歩むことのできる関係を築いてまいります。

2 二つ目は、「未来へ挑戦する町政」です。

職員一人ひとりが、それぞれの経験と専門性を生かしながら、より良い行政サービスを目指して挑戦できる組織をつくります。失敗を恐れて何もしないのではなく、常に町民の生活に思いを致し、町民のために考え、行動した挑戦を評価できる組織風土を築いてまいります。

前例があるから続ける、前例がないからできない、という発想にとらわれるのではなく、「町民のためにもっと良い方法はないか」という視点を常に持つ組織を目指します。職員が夢や希望を持って仕事に取り組み、新しいことに挑戦する。その前向きな姿勢が地域へ広がり、町全体の活力につながっていくものと考えております。

3 三つ目は、「持続可能な町政」です。

新しい施策を進める一方で、過度な負担を将来世代に先送りすることがあ

ってはありません。

限られた財源や人材を最大限に生かし、選択と集中を図りながら、将来に責任を持てる行政運営を進めてまいります。

今必要な行政サービスを確保することはもちろん、常に挑戦を続ける姿勢、次代に向けた持続可能な町政運営を進めることの三つを常に念頭に置きながら、将来を見据えた責任ある町政運営を進めてまいります。

Ⅲ 今後の施策の方向性

「町民の皆様とともに創るまち」、「未来へ挑戦する町政」、「持続可能な町政」の三つのキーワードを基本姿勢として、次に、今後重点的に取り組む施策の方向性を申し上げます。

1 第一は、子育て・教育環境の充実であります。

子どもは、柴田町の宝であり、未来そのものです。

子どもを産み育てたいと思う方が安心して子育てでき、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えることは、町の最も重要な役割の一つであります。行政が中心的な役割を担いながら、地域・学校・企業・団体などと力を合わせ、待機児童ゼロを維持するとともに、保育環境、放課後児童対策など、子育て家庭を支える環境の充実を進めます。

また、町民の皆様とお約束した中学校の給食費無償化、0歳から2歳児の保育料の負担軽減については、それらの制度が恒久的な施策となるよう、将来的な町の財政状況を見極めながら、最優先課題の一つとして実施してまいります。

子育て支援は、単に経済的な負担を軽減することだけが目的ではありません。子育てに対する不安や孤立を減らし、地域全体で子どもと家庭を支える環境を整えることが重要です。子どもを産み、育てるなら柴田町を選びたいと思っていただけの切れ目のない環境づくりを進めてまいります。

教育においては、知識を身につけるだけではなく、子どもたちが自ら考え、課題を発見し、主体的に判断・行動して、より良く問題を解決する力、いわゆる「確かな学力」を育むことが重要であると考えます。

地域の自然、歴史、文化、産業を学びの場として活用するとともに、仙台大学

をはじめとする高等教育機関などとの連携をさらに進め、柴田町だからこそできる学びを充実させてまいります。子どもたちが柴田町で育ったことを誇りに思える教育を進めることが、将来の柴田町の力の土台になると考えております。

2 第二は、地域交通と安全・安心な暮らしの確保であります。

高齢化が進む中、買い物や通院など日常生活における「移動」は、ますます大きな課題となっています。

現在のデマンド型乗合タクシー「はなみちゃんGO」について、その利便性や利用状況を検証するとともに、ライドシェアや自動運転バスなどの新たな交通システムについても研究し、年齢や居住する地域にかかわらず、利便性が高い移動環境を整えるという視点から、柴田町に適した持続可能な地域交通のあり方を検討してまいります。

また、高齢者や障がいのある方をはじめ、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、行政だけではなく、地域全体で支え合う仕組みが必要です。地域住民の力を生かした身近な生活支援の仕組みづくりを検討するとともに、医療・介護・福祉の連携を深め、必要な時に必要な支援につながる地域づくりを進めてまいります。

次に、町民の生命と財産を守ることは行政の最も基本的な責務であります。

近年、全国各地で豪雨災害や地震などが相次いでいます。本町においても、過去の災害を教訓としながら、河川や内水氾濫への対策をはじめ、道路、上下水道などの社会インフラの整備を計画的に進め、国・県とも連携しながら防災・減災対策を強化してまいります。

さらに、災害への備えは行政による施設整備だけで完結するものではありません。自助・共助・公助、それぞれの役割を改めて確認し、地域防災力の向上や防災意識の醸成にも取り組み、災害に強い柴田町を築いてまいります。

3 第三は、地域経済の活性化と均衡ある発展であります。

町が持続的に発展していくためには、地域に仕事があり、人が集まり、経済が循環する環境をつくる必要があります。

企業誘致や創業支援に積極的に取り組むとともに、既存企業が安心して事業を

継続・発展できる環境づくりを進めてまいります。

特に、町道四日市場1号線ほか2路線の整備事業や都市計画道路新栄通線の延伸計画をはじめとする道路整備は、単なる交通環境の改善にとどまらず、企業誘致や地域経済の活性化にもつながる重要な社会基盤となります。道路整備と土地利用、企業誘致などを一体的に捉え、将来の地域発展につながる取り組みを進めてまいります。

また、農業については、担い手不足や高齢化など厳しい課題に直面しています。ほ場整備やスマート農業など、生産性向上につながる取り組みを支援するとともに、農産物の付加価値向上や販路拡大についても関係機関と連携してまいります。

観光については、来年3月に完成予定のスロープカーを新たな観光資源として生かす船岡城址公園や、白石川堤一目千本桜をはじめとする柴田町の魅力をさらに磨き上げ、「花のまち柴田」として培ってきたブランドを、広域的な連携も進めながら、交流人口の拡大と地域経済の活性化へとつなげていくことが重要です。

これまでの花を楽しむ観光にさらに磨きをかけ、地域経済の起爆剤となるような観光へと発展させ、観光によって生み出される経済的な効果を町内の事業者や産業などへも広く波及させる仕組みづくりにも取り組んでまいります。

そして、町の発展において、槻木地区、船岡地区をはじめ、それぞれの地域が持つ特色を生かすことも重要であります。それぞれの地域の魅力や可能性を引き出し、町全体が発展していく「均衡ある発展」も町政の基本に据えてまいります。

4 第四は、持続可能な行財政運営であります。

少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加、公共施設や社会インフラの老朽化への対応など、今後、町の財政を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されます。

だからこそ、限られた財源で最大の効果を生み出すという視点がこれまで以上に重要になります。

既存事業について、その目的や効果、時代に合わせたあるべき姿などを改めて検証し、継続すべきもの、見直すべきもの、新たにに取り組むべきものを見極めながら、メリハリのある行政運営を進めます。

公共施設についても、将来の人口規模や利用状況、維持管理費などを踏まえな

がら、町全体として最適なあり方を検討してまいります。まずは、民間のノウハウを生かした事業運営やサービス向上、財政的メリットなどを総合的に勘案し、児童館・放課後児童クラブの民営化の検討を進めてまいります。

行財政改革は、単に経費を削減することが目的ではありません。限られた人材と財源を、町民にとってより必要性の高い施策へ振り向け、行政サービスの質を高めるための改革でなければならないと考えています。削ることを目的とするのではなく、より良い行政サービスを将来にわたって提供し続けるための改革を進めてまいります。

また、デジタル技術を積極的に活用した行政サービスの拡充を進めると同時に、デジタルに不慣れな方への配慮も忘れず、すべての方にとって分かりやすく、利用しやすい行政を目指してまいります。

あわせて、行政内部の業務についてもデジタル化や効率化を進めます。デジタル技術は目的ではなく、行政サービスをより便利にし、職員が本来担うべき仕事に力を注ぐための手段として活用してまいります。

5 最後に、私がこれからの町政で最も大切にしたい「協働」について申し上げます。

人口減少が進む時代において、すべての地域課題を行政だけで解決することは困難です。

一方、柴田町には、町内会や自治会、地域団体、総合型地域スポーツクラブ、ボランティア団体、企業、大学など、それぞれが持つ知恵や経験、すなわち「大きな力」があります。

行政がすべてを担うのでも、地域にすべてをお願いするのでもありません。それぞれができることを持ち寄り、互いの強みを生かすことで、これまで行政だけでは解決できなかった課題にも新たな道を見いだすことができると考えています。

その大きな力と行政が一体となり、町民の声一つひとつに真摯に向き合いながら、活気と期待に満ちあふれ、一人ひとりの「声」が届き、「夢」や「希望」を形にできる柴田町をつくりたいと考えております。

Ⅳ おわりに

これから具体的な検討を始めなければならない課題も数多くあります。しかし、私が目指す柴田町の姿は明確であります。

子どもたちが夢を持って成長できる町。

高齢になっても安心して暮らし続けられる町。

働く場所があり、地域経済に活力がある町。

災害に強く、安全で安心して暮らせる町。

そして、町民一人ひとりの声が届き、誰もが町政に関わることのできる町。

こうした一つひとつを着実に形にしていくことが、町長として私に課せられた使命であると考えています。

私は、「柴田町に住んでいて良かった」「これからも住み続けたい」「子どもたちへ誇りを持って引き継ぎたい」と心から思える「ふるさと・柴田町」の実現のために果敢に挑戦してまいります。

町政には、これまでの積み重ねを継承すべきものがある一方、時代や町民ニーズの変化に合わせ、勇気を持って変えていかなければならないものもあります。良いものは受け継ぎ、変えるべきものは変え、新たに必要となるものには果敢に挑戦する。その積み重ねによって、柴田町を次の時代へと進めてまいります。

私自身、常に現場に足を運び、皆様の声に耳を傾け、ともに考え、ともに汗を流してまいります。そして、議員各位とは、それぞれの立場と役割を尊重しながら、議論を重ね、町民福祉の向上と柴田町の発展という共通の目的に向かって力を尽くしてまいりたいと考えております。

以上、私の町政運営の考え方について申し述べましたが、議員各位及び町民の皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信いたします。